

# CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ホテルルートイン加須 新築	階数	地上6F
建設地	埼玉県加須市	構造	RC造
用途地域	商業地域、法22条区域	平均居住人員	220 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年4月5日
敷地面積	2,985 m <sup>2</sup>	作成者	(株)久慈設計東京支社
建築面積	1,217 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月12日
延床面積	5,535 m <sup>2</sup>	確認者	(株)久慈設計東京支社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	75%
③上記+②以外の	75%
④上記+	75%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 4  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 2  
LR2 資源・マテリアル: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.4

音環境	2.5
温熱環境	2.2
光・視環境	2.3
空気質環境	2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.2

機能性	2.1
耐用性	2.7
対応性	1.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.9

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	1.9

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	2.4
汚染物質回避	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	2.3
周辺環境への配慮	2.7

3 設計上の配慮事項	
総合	外構緑化を実施し、良好な環境形成に努めている。
その他	0
Q1 室内環境	喫煙室には前室を設け、非喫煙者が煙に曝されないよう実施している。
Q2 サービス性能	非常用発電設備を設置している。電源設備・精密機械の地下空間への設置を避けている。通信手段の多様化を図っている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により、良好な景観を形成している。防犯カメラを設置し、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	高効率の空調設備や照明設備を採用している。
LR2 資源・マテリアル	LGSS下地材を採用している。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペースを確保し、駐車場の出入口を複数設け、周辺道路に路上駐車や渋滞を発生させないよう実施している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)ホテルルートイン加須 新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.2</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-	<b>2.4</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.5</b>	
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	<b>1.8</b>	0.40		
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30		
2 界壁遮音性能				<b>3.0</b>	-	<b>1.0</b>	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>1.0</b>	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>2.0</b>	0.20		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.3</b>	0.35	<b>2.1</b>	1.00	<b>2.2</b>	
2.1 室温制御				<b>2.5</b>	0.50	<b>2.1</b>	0.50		
1 室温				<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.57		
2 外皮性能				<b>1.0</b>	0.25	<b>1.0</b>	0.43		
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.0</b>	0.25	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.3</b>	
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30	<b>1.8</b>	0.30		
1 昼光率				<b>1.0</b>	0.60	<b>1.0</b>	0.60		
2 方位別開口				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40		
3.2 グレア対策				<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
1 昼光制御				<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>				<b>2.7</b>	0.25	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.5</b>	
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00		
4.2 換気				<b>2.0</b>	0.30	<b>1.6</b>	0.38		
1 換気量				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
2 自然換気性能				<b>1.0</b>	-	<b>1.0</b>	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.33		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	-		-		
2 喫煙の制御				<b>3.0</b>	1.00		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.2</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>2.2</b>	0.40	<b>2.0</b>	1.00	<b>2.1</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	<b>2.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性				<b>3.0</b>	-	<b>1.0</b>	0.50		
2 高度情報通信設備対応				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50		
2 リフレッシュスペース				<b>3.0</b>	-		-		
3 内装計画				<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50		
1.3 維持管理				<b>2.5</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				<b>2.0</b>	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.7</b>	0.30		-	<b>2.7</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.8</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>2.0</b>	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>2.2</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				<b>1.0</b>	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				<b>2.0</b>	0.20		-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20		-		
5 通信・情報設備				<b>2.0</b>	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>1.4</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>1.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>1.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり			3.0	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>1.4</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			1.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			1.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			1.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			1.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			1.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>1.5</b>	0.30	-	-	<b>1.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.76	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.70	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO <sub>2</sub> 排出量=75%	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

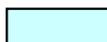
建物名称	(仮称)ホテルルートイン加須 新	BEE	0.7	BEEランク	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
4.0	+	1.6	=	5.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	素晴らしい 8.0以上 	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
<配慮した内容を記述> LCCO2排出量=75%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	1.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述> 植栽により、敷地内暑熱環境を緩和する。			

 : 入力欄